

病理部 (病理診断科)

1. スタッフ

部長・科長 (教授)	大城 久 (常勤病理専門医)
医員 (講師)	蛭田 昌弘 (常勤病理専門医)
(助教)	岡部 直太 (常勤病理専門医)
シニアレジデント	1名 (専攻医)
臨床検査技師	7名 (常勤)
(内、細胞検査士7名、認定病理検査技師5名)	
事務 (メディカルクラーク)	1名 (常勤)
	(主に受付業務担当)

2. 診療部の特徴

病理部・病理診断科では大学の附属病院の一部門として病理診断業務と教育・研究活動を行っている。当センターは埼玉県南部の地域医療の最後の砦として、病理診断の難易度の高い症例が臓器・疾患を問わず非常に多く集まってくるのが特徴である。診療に関しては、剖検、組織診、細胞診等、当センター内でオーダーされるあらゆる病理検査に対応している。分子病理診断については必要に応じて外部委託により実施している。

当部門は基幹施設として日本専門医機構の病理専門研修プログラム認定を受けている。また、日本臨床細胞学会から施設認定と教育研修施設を受けている。

当部門は安全で質の高い病理診断業務を遂行していくため日々努力しており、病理専門医や細胞診専門医を目指す専攻医にとって最適な研修の場を提供している。

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 病理件数等

剖検13件、組織診12,077件、細胞診6,541件、術中迅速組織診730件、術中迅速細胞診266件を実施した。また、免疫染色を1,770件、腎生検蛍光抗体法を108件実施した。

2) 精度管理・外部コンサルテーション

外部精度管理を実施し、日本臨床検査精度管理、埼玉県医師会精度管理でA評価を得た。さらに、日本病理精度保証機構のサーベイランスを前期・後期ともに受審し、いずれも適正との評価を得た。また、内部精度管理として組織診における病理専門医によるダブルチェック率は生検検体で97.7%、手術検体で97.6%であった。また、細胞診における細胞検査士によるダブルスクリーニング率は71.4%、医師確認率は45.1%であった。

病理診断に難渋した症例については外部施設へコンサルテーションを行った。コンサルテーションに快く応じて頂いた先生方に厚く感謝申し上げます。

3) クリニカルインディケーター

組織診の平均報告日数7.5日で、そのうち生検材料は6.2日、手術材料は8.7日であった。細胞診の平均報告日数は2.8日であった。剖検率は1.7%であった。

4. カンファレンス等

研修医を対象とした院内CPCの開催に関して15回 (15症例) 協力し、CPCレポート

の作成指導を行った。また、部内カンファレンスとして剖検症例のマクロ検討会、ミクロ検討会を全例で実施した。

5. 研究・学会活動

【論文発表】

- 1) 織田聖月, 河野哲也, 中村啓子, 小島朋子, 細田健太, 猪山和美, 守川春花, 岡部直太, 蛭田昌宏, 田中亨, 大城久. 腓神経内分泌腫瘍の1例. 埼玉県臨床細胞学会誌41巻, 38-43, 2023.
- 2) 小島朋子, 河野哲也, 猪山和美, 細田健太, 織田聖月, 中村啓子, 近澤研一郎, 今井賢, 守川春花, 岡部直太, 蛭田昌宏, 田中亨, 大城久. 卵巣癌の術中腹水細胞診において悪性細胞との鑑別を要した反応性中皮細胞の1例. 埼玉県臨床細胞学会誌41巻, 80-83, 2023.
- 3) 福井伶奈, 山田朋子, 倉田まりな, 山本直人, 田中亨, 大城久, 梅本尚可. 腫瘍間質と所属リンパ節にIgG4陽性形質細胞が多数浸潤していた巨大有棘細胞癌の1例. *Skin Cancer*. 2023 ; 38 (1) : 1-6.
- 4) 福井伶奈, 梅本尚可, 一条英里, 廣田由佳, 山本直人, 大城久, 出光俊郎. ばち指状の外観を呈したSuperficial Acral Fibromyxomaの1例. *Skin Surgery*. 2023 ; 32 : 14-20.
- 5) 中野尚美, 坂口美織, 大城久, 神谷浩二, 前川武雄, 小宮根真弓, 村田哲, 大槻マミ太郎. 軟部神経周膜腫 Low Grade Fibromyxoid Sarcomaと組織学的鑑別を要した1例. *皮膚科の臨床*. 2023 ; 65 : 279-282.
- 6) Hayase T, Washino S, Yagi H, Mayumi S, Yazaki K, Nakamura Y, Saito K, Sawada A, Hiruta M, Tamai K, Miyagawa T. [A Case of Left Renal Cell Carcinoma with Renal Arteriovenous Fistula and Multiple Vascular Malformation Undergoing Nephrectomy]. *Hinyokika Kyo*. 2023 Oct; 69(10): 289-294.
- 7) Tominaga R, Yoshimura K, Kawamura M, Kako S, Kanda Y, Morikawa H, Ando S, Okabe N, Hiruta M, Tanaka A, and Oshiro H. Secondary Budd-Chiari syndrome caused by adult T-cell leukemia/lymphoma. *Pathol Int*. 2023 Oct; 73(10): 520-522.
- 8) Misaki Y, Minakata D, Ibe T, Gomyo A, Yoshimura K, Kimura SI, Nakamura Y, Kawamura M, Kawamura S, Takeshita J, Yoshino N, Matsumi S, Akahoshi Y, Tamaki M, Kusuda M, Kameda K, Wada H, Kawamura K, Sato M, Terasako-Saito K, Tanihara A, Hatano K, Nakasone H, Imadome KI, Wada H, Kako S, Oshiro H, Tanaka A, and Kanda Y. Chronic active Epstein-Bar virus infection complicated by pulmonary artery hypertension. *J Infect Chemother*. 2023 Feb; 29(2): 212-218.
- 9) Manabe O, Tsukui T, Yoshimura K, Oshiro H, Oyama-Manabe N, Aikawa T, Takahashi K, Sakakura K, and Fujita H. ¹⁸F-FDG PET/CT findings in autopsy confirmed a case of ischemic cardiac disease at an early stage. *Eur J Nucl*

Med Mol Imaging. 2023 Jun; 50(7): 2224-2225.

- 10) Nomura M, Yuzawa M, Hiruta M, Ohta H. Acute respiratory failure developing in a patient with lymphomatoid granulomatosis. BMJ Case Rep. 2023 Dec 16; 16(12): e255697.
- 11) Masuda K, Nagai Y, Amari H, Tahara H, Maeda Y, Shiihara J, Ohta H, Hiruta M, Yamaguchi Y. Hyperprogressive disease in lung metastases without target lesion progression after durvalumab consolidation therapy: A case report. Thorac Cancer. 2023 Nov; 14(31): 3161-3165.

【学会発表】

- 1) 河野哲也, 安田政実, 今野良, 中村啓子, 大城久: ワークショップ9 頸部の良性変化/病変の細胞診精度: 萎縮, 化生, などの捉え方における一致と不一致(供覧症例に対する解説と持論): WS9-2迷ったときはここをみよう, 細胞には違いがある オンデマンド配信. 第64回日本臨床細胞学会総会. 2023年6月9日-11日, 愛知.
- 2) 守川春花, 小島朋子, 細田健太, 猪山和美, 織田聖月, 中村啓子, 河野哲也, 岡部直太, 蛭田昌宏, 大城久, 安達章子. 扁平上皮化生を伴う気管原発の腺様嚢胞癌の1例. 第62回日本臨床細胞学秋期大会. 2023年11月4-5日, 福岡.

【その他の発表】

- 1) 河野哲也, 今野良, 大城久: eラーニング教材「扁平上皮化生とHPV感染」(細胞診断の理解とスキルアップのた

めに: 組織診断との整合性・非整合性と用語の整理). オンデマンド配信.

日本臨床細胞学会eラーニング検査士講習・領域講習, 2023年1月(クレジット対象web視聴)

- 2) 河野哲也: 「異型の弱い小型尿路上皮癌の見方と考え方」. 第60回東京都細胞検査士会学術研修会 教育講演2, 2023年2月25日(東京現地・オンデマンド配信)
- 3) 河野哲也: 「子宮頸部のLBP標本 腺細胞の見方・考え方」. 第13回さいたまLBC研究会, 2023年2月28日(web開催)
- 4) 中村啓子: 「子宮頸部LBP標本におけるSCCとHSILの鑑別」. 第40回埼玉県細胞検査士会学術集会 症例検討会, 2023年3月11日(浦和現地・webハイブリッド開催)
- 5) 河野哲也, 藤井晶子: 「唾液腺の細胞診 この細胞像をどう考える」. 第41回埼玉県臨床細胞学会・埼玉県臨床細胞医会学術集会 聴衆参加型スライドカンファレンス, 2023年4月22日(浦和現地・webハイブリッド開催)
- 6) 小島朋子: 教育セミナー1(病理細胞) 初心者, 初級者向けの基礎講習会「薄切」. 第59回首都圏支部・関甲信支部医学検査学会, 2023年11月25日~26日(パシフィコ横浜アネックスホール)
- 7) 河野哲也: 「泌尿器実習」. 第132回細胞検査士養成講習会, 2023年7月25日(火), 杏林大学保健学部実習室(井の頭キャンパス)
- 8) 河野哲也: 「細胞診/ベテラン編 重層コンパウンド法によるセルブロックの

作製方法」. 標本道場, 2023年9月,
サクラファインテックジャパン 学術
情報HP

【学術集会の開催等】

2023年4月22日、第41回埼玉県臨床細胞学会学術集会（埼玉県臨床細胞医会 学術集会）の集会長を大城久が務め、埼玉県県民健康センターとWEB配信のハイブリッド形式で本会を開催した。

部に要望する。

6. 部門の事業計画

- 1) 目標に対する達成度：2023年度の目標としては「作業の結果を確認し、仕上がりを考えよう」を掲げ、概ね達成できたが、「マニュアル一辺倒な対応で、扱う機器等の状態を注意深く観察しない傾向が感じられた」との指摘があった。
- 2) 2024年度は「自分の手技に満足していますか」を目標に掲げ、安全で正確、かつ質の高い業務の遂行を目指して行く予定である。
- 3) 現在、病理部に常勤のメディカルクラークが1名配属（がんゲノム医療室兼任）されているが、業務量が増加しており、さらに常勤のメディカルクラーク1名の増員または事務職員1名の新規配属を当センター執行部に要望する。
- 4) 増大する病理診断業務に対応すべく、病理医（病理専門医）の増員、および臨床検査技師（細胞検査士）の増員を当センター執行部に要望する。
- 5) 病院機能評価の審査結果を踏まえ、剖検室の作業環境の改善および感染対策に向けた改修工事等を当センター執行